

神戸港港湾審

PC18拡張計画を了承

バース延長・背後用地拡大 効率運用へ

【関西】神戸港港湾審議会(会長 加藤恵正・兵庫県立大学院教授)が6日、神戸市役所内で開かれ、ポトアイランドのコンテナターミナルPC18(借受者・上組)の拡張計画を原案通り了承した。隣接する公共のK岸壁をコンテナ船用に利用。背後用地も4・4畝増の34・5畝に拡張し、貨物蔵置スペースを増やす。利用船舶・取扱量の増加で現ターミナルが手狭になっていたことから、国際フィーター貨物などを効率的に取り扱うため、ターミナルを管理運営する阪神国際港湾会社が神戸市に提案し、審議会に諮った。

PC18は、ポトアイランド2期の東側角地に位置。東側バース(岸壁長400m、水深16m、以下同)と南側バース(350m、水深15m)に加え、西側に

隣接する公共のI、J岸壁(いずれも250m、水深12m)のK岸壁(220m、水深12m)を耐震機能を備えた

コンテナ船用埠頭に転換。背後の港湾関連用地4・4畝も埠頭用地に利用計画を変更し、PC18のヤードとして利用する。これによって、PC18は埠頭面積が34・5畝に拡張され、南側の岸壁長も1050mに延伸。国の直轄事業として実施され、総事業費は約60億円を見込んでいる。